

環境経営レポート

運用期間：2024年（1月～12月）



九州白水株式会社

発行：2025年3月17日

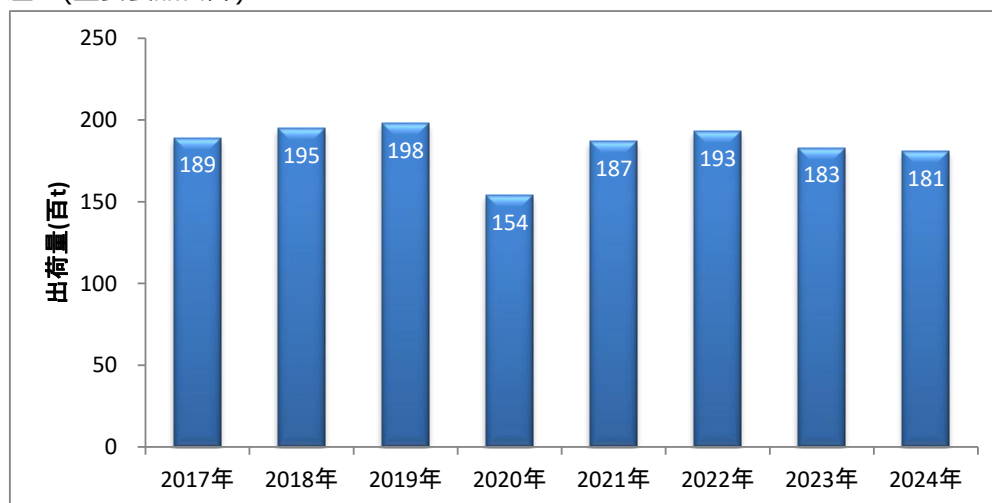


目次

	ページ
1. 組織の概要	… 1
2. 対象範囲（取り組みの対象組織・活動）	… 1
3. 環境経営方針	… 2
4. 環境経営目標（当年度および中期環境経営目標）	… 3
5. 環境経営計画（当年度の主要な環境経営計画）	… 4
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制を含む)	… 5
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価 （実績には二酸化炭素排出量を含む）、並びに次年度の 環境経営目標及び環境経営計画	… 6～8
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、 訴訟などの有無	… 9
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	… 9

1. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
九州白水株式会社
工場長：日吉幸二
- (2) 所在地及び代表電話番号
本社工場 福岡県飯塚市横田669
TEL：0948-23-0484
- (3) 環境管理責任者及び担当者指名並びに連絡先
環境管理責任者：技術部 部長 吉柳 大三郎 Mail：kiryu.daizaburo@hakusuitech.com
環境管理担当者：製造部 部長 山辺 大吾 Mail：yamabe.daigo@hakusuitech.com
- (4) 事業内容
無機顔料製造業
主要製品：酸化亜鉛・亜鉛末およびそれらの加工品
- (5) 事業規模
生産量(主要製品合計)



従業員数： 45 人(2024/12月末時点)
内訳： 事務所15名, 現場作業員30名
延床面積： 11270.7 m²

- (6) 事業年度： 1月～12月

2. 取り組みの対象組織・活動

- (1) 認証範囲： 全組織・全活動
- (2) 対象事業所： 本社および工場
- (3) 対象外事業所： 無し
- (4) 対象事業活動： 酸化亜鉛・亜鉛末およびそれらの加工品の製造, 販売

3. 環境経営方針

基本理念

九州白水株式会社は、地球環境の改善を、事業活動の重要な課題と位置づけ、環境への負荷低減に積極的に取り組みます。

そのため、環境経営システムを構築・運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い、次世代に承継できる環境の実現を目指します。

行動指針

以下の行動指針に基づき、環境目標及び活動計画を定め、定期的な見直しを行い、継続性のある活動を展開します。

1. 環境負荷物質であり「二酸化炭素」の排出量を削減します。
省エネルギーを推進し、エネルギー原単位を前年比対し1%低減します。
(脱炭素、SDGsの推進)

Scope1、2：2030年度までに30%削減（2013年度比）

2050年度までに50%削減（2013年度比）

<2024年度追加項目>

電力会社からの再生エネルギー購入をして総二酸化炭素の排出削減を実施する。

2024年3月より、電力使用量の総購入量割合を5%で開始。

総二酸化炭素の排出を抑制するため、達成次第で購入割合の増加も検討します。

2. 工場から排出される「廃棄物」を前年比対し1%削減します。
3. 工場で使用する「水（上水、工業用水）使用量」を前年比対し1%削減します。
4. 工場で使用する「化学物質」の適正使用と管理に努めます。
工場で製造する製品の「環境負荷物質含有」の把握と管理に努めます。
5. リサイクル原料を積極的に使用します。
6. 環境関連法規・条例等を遵守します。
7. この環境方針を従業員全員に周知するとともに、教育・訓練を行い、環境保全に向けた意識の向上に努めます。
8. この環境方針は、広く一般に公表します。

・上記1.2.3は前年値実績値より、1%削減を目標値とします。

・上記1.3は計画実現のため、2050年迄のKPI^(※2)を作成して、目標及び現状値の監視体制の強化。

※2：KPIは「Key Performance Indicator（重要業績評価指標）」の略称であり、目標に対する各プロセスの達成度合いを評価するための指標となります。

・「EcoVadis^(※3)」に加入して、グローバルサプライチェーンを通じた企業の環境・社会的慣行の改善実施。

ハクスイグループとして「EcoVadis」に参画しています。その項目中の「環境」分野のみ限って、資料などを共有させ、

CSR（Corporate Social Responsibility）の改善を実現している。

※3：EcoVadisとは、企業のサステナビリティパフォーマンスを評価・改善するための企業です。

主にバイヤー企業向けに、サプライヤー企業のCSR方針や施策、業績の評価サービスを提供している会社です。対象項目は「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4分野となります。

Ecovadisは世界的に信頼され、的確にサステナビリティの評価や課題を明確にしてくれる評価機関です。

改訂：2024/1/20

九州白水株式会社

工場長

日吉 幸二

4. 当年度および中期環境経営目標

	目標設定項目	単位	基準データ 2017年度	目標			
				2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
1. 二酸化炭素排出量の削減 原単位 1%削減	総排出量	kg-CO ₂ /年	13,310,438	-	-	-	-
	原単位	kg-CO ₂ /t-Zn	831	782.1	774.5	766.8	759.1
	電力使用量原単位 (通常電力購入量) (再生電力購入量)	kWh/t-Zn	667	628.2	621.7	615.5	609.3
			-	601.5	590.6	584.7	578.9
			-	26.7	31.1	30.8	30.5
	軽油使用量原単位	L/t-Zn	1.34	0.70	0.1±0.1	0.1±0.1	0.1±0.1
	灯油使用量原単位	L/t-Zn	1.03±0.2 (管理値)	1.03±0.2	1.03±0.2	1.03±0.2	1.03±0.2
	LPG使用量原単位	m ³ /年	5117.6 (2019年度)	4,818	4,769	4,722	4,675
		kg/年	11.17	10.5	10.4	10.3	10.2
	A重油使用量原単位	L/t-Zn	184 (2018年度)	173.5	171.8	170.1	168
	再生エネルギー購入率	電力使用割合(%)	-	5.0	5.0	5.0	5.0
2. 廃棄物排出量の削減 一般廃棄物= 総量1%削減 金属・煉瓦屑= 原単位1%削減	一般廃棄物	kg/年	18,700	17,601	17,425	17,250	17,078
	金属・煉瓦屑原単位	kg/t-Zn	28.5	26.9	26.6	26.3	26.1
3. 水使用量の削減 上水= 総量1%削減 工業用水= 原単位1%削減	上水	m ³ /年	8,645	8,139	8,057	7,977	7,897
	工業用水原単位	m ³ /t-Zn	1.30	1.23	1.22	1.20	1.19
4. 化学物質使用量の削減 適正処方把握	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸含有薬剤 原単位	kg/t(委託加工品)	1.47±0.2(管理値)	1.47±0.2	1.47±0.2	1.47±0.2	1.47±0.2
製品含有環境負荷物質の管理 (顧客への逸脱品出荷防止)	「各種酸化亜鉛」 「各種亜鉛末」	JIS規格値、各々顧客との仕様書(規格値)	顧客指摘回数: 0件	0件	0件	0件	0件
5. コピー用紙購入量の削減	コピー用紙	束(1束500枚)	165	155	153	152	150

※電力の二酸化炭素排出係数は、2016年度の調製後排出係数(九州電力 0.483kg-CO₂/kWh)を使用。

※LPGは原単位管理から総量管理へ変更。

※軽油はフォークリフトの使用のみであった。2024年末に全車種をEVに変更完了。よって、維持管理値とした。

※灯油、化学物質(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸)は、分母と相関は無い。よって、維持管理値とした。

※1. 二酸化炭素排出量の削減(灯油)、4. 化学物質使用量の削減以外は、分母工場管理値使用。

※製品含有環境負荷物質と管理とは、弊社製造品である「各種酸化亜鉛」、「各種亜鉛末」ともに亜鉛原料由来により環境負荷物質が含有している。

その環境負荷物質とは「Cd (CdO) 、Pb (PbO) 」である。各々顧客との仕様書(規格値)に適合しているのかの社内で分析を行い管理(合否判断)をこの取り組みは、弊社に於ける環境負荷物質の把握及び管理と顧客への環境負荷物質逸脱品の出荷防止が目的である。

5. 当年度の主要な環境経営計画

(1)二酸化炭素総排出量の1%削減

環境目標	活動項目	
電力使用量の削減	1	不要な照明の消灯
	2	長時間席を離れるとき、パソコンの画面OFF
	3	コンプレッサー/エアー漏れチェック
	4	高効率蛍光灯の導入（見直しと実施）
	5	蛍光灯の2027年問題もあり、2025年内には工場内を全てLEDへ切替
	6	電力会社より、再生エネルギー購入開始（5%契約開始：CO ² 排出量抑制）
軽油使用量の削減	1	省エネドライブの励行（フォークリフトでの軽油使用が無くなり、来期から適用外）
	2	アイドリングストップの励行（フォークリフトでの軽油使用が無くなり、来期から適用外）
	3	化石燃料から電気自動車の導入による環境負荷の低減（2024年末、全完了。）
灯油使用量の削減	1	暖房温度の適切管理
	2	溶解する際は、2回以上実施する。
LPG使用量の削減	1	作業浴場の適切な温度管理
	2	燃焼効率確認のためのメンテ(年1度)
	3	「限定した商品」の生産の際の使用量(率)の把握
重油使用量の削減	1	各炉における原単位の削減
	2	溶解炉の高効率炉使用
	3	設備の定期点検と予防保全の実施をしている
	4	亜鉛釜の浴温の適正な温度管理
総二酸化炭素の削減 (スコープ2/電力)	1	電力会社からの再生エネルギー購入（2025年度追加項目）
	2	購入割合の妥当性
	3	2024年3月から、使用電量全体の5%再生エネルギーの置き換え契約開始

(2)廃棄物総排出量の1%削減

環境目標	活動項目	
パレット木材の削減	1	破損パレットの修繕
	2	顧客からのパレットの返却
廃プラの削減	1	フレコンのリサイクルによる使用
金属・煉瓦屑の削減	1	適切な管理を実施する

(3)上水、工業用水排出量の1%削減

環境目標	活動項目	
節水活動	1	節水活動（水を適量使用する。）
	2	誘導炉（低周波）水冷式インバータ適切、流量
	3	ステッカー等の貼り付けによる社員への節水の意識付け
	4	EMSメンバーによる、管理体制の強化（月毎の使用量が適切なのか判断）

(4)化学物質の削減

環境目標	活動項目	
化学物質の削減 (環境負荷物質の管理)	1	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸およびその塩の使用量管理。
	2	SDSを取り寄せ使用上の注意事項を守る
	3	環境負荷物質(Pb,Cdのみ)含有を各顧客仕様値クリアー及びJIS規格値以内の納入

(5)コピー用紙購入量の削減

環境目標	活動項目	
コピー用紙購入量の削減	1	コピー用紙の裏紙使用の実施
	2	ペーパーレス会議の実践（印刷物削減）

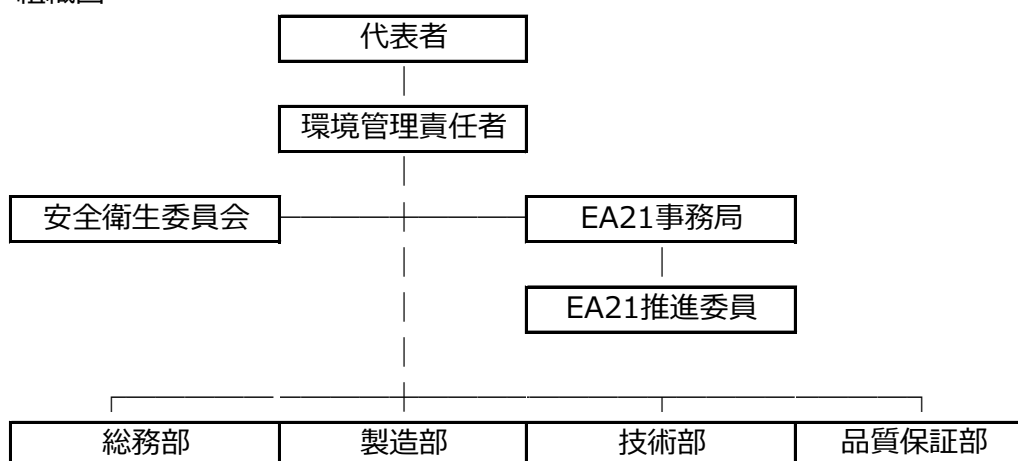
(6)環境活動の展開

環境目標	活動項目	
環境教育〔環境教育の実施〕	1	年2回以上の教育訓練実施

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制を含む)

区分	部署(現時点)	役割・責任・権限・使命
代表者	工場長	経営に於ける課題とチャンスの明確化 環境方針の設定 運用資源の準備 実施体制の構築 全体の統括
環境管理責任者	技術部	EMS全体の把握 教育・訓練の実施 代表者に対し, EMS運用状況の報告 自社商品のSDSの見直し 顧客との環境負荷値 (Cd,Pb) 仕様の取り交し
EA21事務局	技術部	EA21文書及び記録の維持・管理 環境レポート等の作成
EA21推進委員	製造部	環境負荷データの収集・整理
	総務部	
各職場責任者	総務部	EA21の取り組みに必要な情報の提供, 環境上の緊急事態への対応・準備
	製造部	EA21の取り組みの実施.
	品質保証部	EA21の取り組みの実施.
		環境負荷物質「Cd、Pb」の日常管理の実施。
	技術部	EA21の取り組みの実施.
安全衛生委員会	各部	活動計画や実施状況の共有. EMS運用上必要な措置の実行管理
構成員全員		是正・予防の提起

組織図



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標に対する実績

	目標設定項目	単位	基準データ 2017年度	2024年度 目標	2024年度 実績	達成率 (%)
1. 二酸化炭素排出量の削減	総排出量	kg-CO ₂ /年	13,310,438	-	12,029,617	100.0%
原単位 1%削減	原単位	kg-CO ₂ /t-Zn	831.0	782.1	782.1	
	電力使用量原単位 (通常電力購入量)	kWh/t-Zn	667.0	628.2	623.7	100.7%
	(再生電力購入量)		667.0 0.0	601.5 26.7	597.2 26.5	
	軽油使用量原単位	L/t-Zn	1.34	0.7	0.28	254.2%
	灯油使用量原単位	L/t-Zn	1.03±0.2(管理値)	1.03±0.2	1.09	-
	LPG使用量原単位	m ³ /年	5117.6 (2019年度)	4,818	4,638	103.9%
		kg/年	11.17	10.52	10.13	
	A重油使用量原単位	L/t-Zn	184 (2018年度)	173.5	179.5	96.6%
	再生エネルギー購入率	電力使用割合(%)	-	5.00	4.25	83.3%
2. 廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	kg/年	18,700	17,601	6,800	226.5%
一般廃棄物= 総量1%削減	金属・煉瓦屑原単位	kg/t-Zn	28.5	26.9	25.0	107.2%
3. 水使用量の削減	上水	m ³ /年	8,645	8,139	4,879	166.8%
上水= 総量1%削減	工業用水原単位	m ³ /t	1.23	1.23	1.07	114.3%
4. 化学物質使用量の削減適正処方把握	直鎖アルキルベンゼンスルホン 酸含有薬剤 原単位	kg/t(委託加工品)	1.47±0.2(管理値)	1.47±0.2	1.55	-
製品含有環境負荷物質の管理 (顧客への逸脱品出荷防止)	「各種酸化亜鉛」「各種亜鉛末」	JIS規格値、各々顧客との仕様書(規格値)	顧客指摘回数：0件	0件	0件	0件
5. コピー用紙購入量の削減	コピー用紙	束(1束500枚)	155	155	123	125.9%

※電力の二酸化炭素排出係数は、2016年度の調製後排出係数(九州電力 0.483kg-CO₂/kWh)を使用。

※LPGは原単位管理から総量管理へ変更。

※軽油はフォークリフトの使用のみであった。2024年末に全車種をEVに変更完了。よって、維持管理値とした。

※灯油、化学物質(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸)は、分母と相関は無い。よって、維持管理値とした。

※1. 二酸化炭素排出量の削減(灯油)、4. 化学物質使用量の削減以外は、分母工場管理値使用。

※製品含有環境負荷物質と管理とは、弊社製造品である「各種酸化亜鉛」、「各種亜鉛末」とともに亜鉛原料由来により環境負荷物質が含有している。

その環境負荷物質とは「Cd (CdO)」、「Pb (PbO)」である。各々顧客との仕様書(規格値)に適合しているのかの社内で分析を行い管理(合否判断)を実施。

この取り組みは、弊社に於ける環境負荷物質の把握及び管理と顧客への環境負荷物質逸脱品の出荷防止が目的である。

環境経営計画の取組結果と評価

1. 二酸化炭素総排出量の1%削減

目標値に対し、100.1%達成となった。また、2050年迄のKPI（重要業績評価指標）を作成して、目標及び現状値の監視体制の強化。大分類で考察すると「微減：電力」、「削減：軽油、LPG」、「増加：A重油、灯油、」である。各々の燃料増減理由などの詳細は下記の項目毎に記載しました。

二酸化炭素総排出量の削減に最も影響が大きかった要因は、2024年3月より電力会社から5%の再生エネルギー購入を開始したこの効果が得られた次第である。

（再生エネルギー購入を年間を通して算出すると、4.3%再生エネルギー購入となった。この再生エネルギー購入分は、二酸化炭素排出量はゼロで算出した次第。）

もし、再生エネルギーを購入がない場合、今期は総二酸化炭素排出量は未達になっていたことが判明。

1-1) スコープ1（化石燃料/A重油）

目標に対し、99.6%の未達である。

目標値に対し未達「3.4%（plus6.0L/t-Zn）」となった。背景は「各種重油使用の生産炉」に於いて、前年比より、微増であり悪化してる。改善策としては、原料の仕込み量適正化を行い燃料削減を実施したが、悪化分を補足するだけの改善は出来ていない。

今期は、溶解炉の使用機種の見直しで原単位の削減を検討中。

通年の課題であるが、省エネを優先しなら各品種の品質向上/生産安定化の維持を保ち、「原単位の改善」することは難題である。

また、今期が何故達成出来たのか推測すると、エコアクションを初めて7年間（毎年の削減換算合計率は約7%である。）となり、過去に於いては達成出来ていた。

言い換えると、7年も経過すると根本的な省エネ設備の改善が出来ない限り、削減を継続して達成するには限界があると思われる。

1-2) スコープ1（化石燃料/LPG）

目標に対し、103.9%達成となった。

主消費先は、「浴槽湯」と「限定した商品」の燃料に使用している。他は「暖房」と「耐火物の乾燥」などあるが、この部分の使用量は少量である。2024年度は「限定した商品」の生産を1回実施した、その際の使用量は全体割合使用率は「24.9%」であり、大きな数値である。

この「限定した商品」の販売次第でLPGの使用量は左右されるが、来期は2024年度より増加する予想があるため、来期はLPGは悪化すると予想される。

また、この限定商品の出荷量の増減により、LPG使用量の変動も左右されるのでこの分を差引いた部分を「適正に管理」する必要がある。

「限定した商品」の生産分割割合は24.9%である。浴槽の消費量は、2024年:3,484m³、2023年:3,736m³であり、限界値近いと判断している。

1-3) スコープ1（化石燃料/軽油）

目標に対し、254.2%の達成である。

軽油の消費先は「フォークリフト」のみある。2024年末には全車がEV（Electric Vehicle）化が実現したことより、軽油は大幅な減少となった。

この結果、2025年初めには軽油使用自体がほぼ無くなる（消費ゼロへ。推定約500L/年以下）予定だが、比例して電気使用量は微増加する傾向と見化石燃料からEV変更により工場全体から考えると、総二酸化炭素量の削減にEV化は貢献すると思われる次第である。

1-4) スコープ1（化石燃料/灯油）

目標設定は無いが、数字は悪化した「1.09L/t-Zn」である。

生産とは直接関係のない部分（原料溶解）で使用しているため、目標設定を昨年度から外した。他の使用用途は一部の暖房器具に使用。

この工程は連続操業でなく、日勤のみ稼働。稼働する際は2回/日と決め実施してエネルギーの削減を行っている。

その理由は、2回のみでは大幅に原単価悪化するためである。

この装置は老朽化しているので、断熱効果が乏しい状況。よって、熱効率を上げるためには囲い設備の交換及び、リニューアルが重要と考える。

今後も使用量が適切な量なのか数字の把握及び管理が重要と思われる次第。

1-5) スコープ2（電力）

目標に対し、削減は出来ている値（100.7%）であったが、1%削減達成はしていない。

今期は大きなトラブルもなく順調に生産は出来たのだが、大幅な削減は出来ていない。

また、フォークリフトの燃料を軽油からEVに変更したことで、電力は微増したと思われるが、EV車専用の電力メータがないため正確な数値は不明である。

2024年3月より、電力会社から5%の再生エネルギー購入を開始したが、kWhの削減でなく、電気から排出される二酸化炭素量の削減である。

今後の更なる電力の削減として工場内の蛍光灯を再度確認した次第。使用頻度が少ない箇所で、未だ蛍光灯が数十か所残っていてLEDへ切替が出来ていない。

蛍光灯の2027年問題もあり、2025年内には工場内を全てLEDへ切替で進めている次第。切替効果予測（最大）は約1,000kWh/年と見込んでいる。

他は、高周波誘導炉を2基の原単位を過去4年の原単位を確認したが、毎年同等であり原単位は安定している。

原単位の削減が可能なのか模索したが、生産量と電力使用は比例関係であり、見直しは困難である。

よって、現在は原単位が適正であるのかモニタリングしている次第。

言い換えれば、高周波誘導炉の生産を止めれば、電力の使用量は削減可能であるが、根本的には解決策ではない。

2. 廃棄物総排出量の1%削減

一般廃棄物の達成は、徹底した分別廃棄等の効果と思われるので 今後も削減を持続継続する。

金属・煉瓦屑も前年比対比では達成（107.2%）している。また、過去5年の排出単位は $25 \pm 4 \text{ kg/t}$ 範囲内である。

但し、ここ最近では顧客の要望で、循環経済（サーキュラーエコノミー：再生原料）からの原料の切替の要請がある。

この動きの背景は、廃棄物発生量の増加を抑制するため、持続可能な形で資源を利用する「循環経済」への移行を目指すことが世界の潮流となっている要因ためとの意向をうける。

弊社で該当する内容は、原料を純亜鉛から再生原料使用の割合増及び切替の要求があります。

ここで問題なのは、再生原料を使用すると、純原料と比べ不純物が多いため産業廃棄が増加傾向になることが考えられる。

その理由は、使用する再生原料の品質の悪化（不純物量）があり、弊社は産廃（金属・煉瓦屑廃棄物）が増加する懸念である。

よって、排出把握と適正量なのか数字の把握及び、使用する再生原料が持続的に使用出来るのかモニタリングが重要と思われる。

3. 上水、工業用水排出量の1%削減

2050年迄のKPI（重要業績評価指標）を作成して、目標及び現状値の監視体制の強化。

上水及び工業用水ともに達成した。上水達成要因は、2022.6月に一部のラインを上水から工業用水に切替えを実施した影響が継続。

上水の主用途は浴槽であり、この水使用量（垂れ流し）が無くなった影響と思われる。目標に対し、166.8%の達成である。

工場用水の主使用先は冷却水に使用している。これも目標達成（114.0%達成）してる。

この部分は更に改善が出来ると判断して、2024年から管理体制のチームで毎月の使用実績が適切な強化を図った結果である。

双方とも、今後も継続出来るのかモニタリングが必要。

4. 化学物質の削減

化学物質使用量は適正に管理されている。処方量は、原料の品質により変動する。よって、微増でも問題ないと判断している。SDSも適切に収集・管理されている。

この部分は、削減は困難であり、今期から使用量が適切量なのか数字の把握に切り替えた。よって、適切な管理が重要であり、目標値を適用外とした。

また、製品含有環境負荷物質の管理は、製品中に原料由来として「Cd（CdO）、Pb（PbO）」が混入する。酸化亜鉛に関してはJIS規格値が存在するが、亜鉛末には公の規格値は無い。

よって、顧客と交わした仕様書値の閾値に適合しているか社内で分析を実施後に合否判定を行い、顧客へ納品している次第。

目的は顧客への「環境負荷物質規格値以上の逸脱品を出荷防止」であり、今年度も顧客から「Cd（CdO）、Pb（PbO）」の問題指摘は無かった。

5. コピー用紙購入量の削減

目標値に対し、125.9%達成である。効果は、勉強会等及び、FAXがペーパーレスとなった効果が挙げられる。

事務所社員は数名増えたことがあり、この数字を維持することは限界あるのかと思われるが継続する。

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

上述の検討課題を継続的に各々フォローする。特に重油原単位の改善は、重点課題としてフォローする。

その他未達項目の改善も継続して推進する。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟などの有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通りです。

「廃棄物処理法」、「大気汚染防止法」、「水質汚濁防止法」、「浄化槽法」、「悪臭防止法」、「騒音規制法」、「消防法」、「振動規制法」、「PRTR法」、「土壌汚染対策法」、「化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律(化審法)」、「省エネ法」、「GHSラベル更新」環境関連法規などの一覧, それらの遵守状況を確認した結果, 環境関連法規への違反はありませんでした。尚, 関係当局よりの違反の指摘, 利害関係者からの訴訟等もありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

環境経営目標について、主たる目標であるCO2排出量の削減は、目標値をクリアできた。一方で各項目においては、順調に目標値をクリアした項目と目標値に至らなかった項目とがあった。目標未達の項目については、目標達成ができる様に、重点的に改善を図ってきたい。

今期の具体的な実績として、フォークリフト・社用車の完全EV化、電気のCO2削減プラン導入（全体の5%分購入）を実行した。来期はさらに推進したい。

また、今期からリサイクル原料比率アップに取り組み、成果を上げつつある。来期重点的に取り組む方針である。